

# Candida Detector®

カンジダディテクター

カンジダディテクターは  
**操作が簡単**で**室温培養**ができます  
 しかも**保険請求可能**

C.albicansの菌数及び色変化(赤→黄)判定  
 (培地のpHの変化に対応して赤色→黄色に変化します)

10<sup>8</sup> 10<sup>7</sup> 10<sup>6</sup> 10<sup>5</sup> 10<sup>4</sup> 10<sup>3</sup> 10<sup>2</sup> 10<sup>1</sup> CFU/mL

(+)陽性  
 (±)擬陽性  
 (-)陰性

37℃ 恒温槽  
 48時間

要冷蔵

① 抗真菌薬処方の前に  
 検査を行いましょ

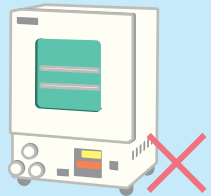


② 訪問診療の現場で活躍



日常臨床の  
 口腔ケアの評価方法

③ 設備投資が不要



④ 患者様への説明が簡単



カンジダディテクター  
 標準医院価格 4,300円(税別) / セット

入ってます

|              |       |     |
|--------------|-------|-----|
| 〈内容〉         |       |     |
| 寒天培地         | ..... | 10本 |
| 滅菌綿棒         | ..... | 10本 |
| ネームラベル       | ..... | 10枚 |
| カンジダ菌検査結果シート | ..... | 10枚 |
| 使用説明書 (判定見本) |       |     |



## カンジダ簡易検出培地

### 使用説明書

要冷蔵

#### ■ 特 長

本カンジダ培地は、日常臨床の口腔ケアの評価方法の一つとして開発された選択培地です。

本培地はサブロー培地を基本とし、採取された検体に混在する細菌類が発育せず、カンジダ菌（真菌）のみを選択的に検出するように発育抑制剤が添加された培地で、且つ、特殊指示薬を含有しているため、コロニー数による判定に限らず、短時間で色変化により容易にカンジダ菌を検出判定することができます。

また、室温培養の場合は、コロニー数による判定が可能です。

#### ■ 用 途 カンジダ菌の検出

#### ■ 操作方法

1. 付属の滅菌綿棒で被験者の舌、口腔粘膜、義歯床粘膜面などを2～3回拭い、検体を採取します。

2. 綿棒で採取した検体を、バイアル瓶の寒天培地表面に蛇行を描くように直接軽く塗りつけます。

注) 乾燥した口腔内より検体を採取する場合は、付属の滅菌綿棒を滅菌生理食塩水などで十分濡らしてから行うと検体の採取が容易になります。

3. **検体塗布後はバイアル瓶を直立させた状態に保ち、キャップを緩めて37℃の恒温槽で立てたまま培養します。**

4. 付属の判定見本と比較して判定します。

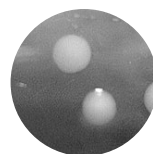
**室温培養の場合では夏季は3～5日間、冬季はなるべく暖かい場所に5～7日間放置してコロニー数の菌数見本で判定します。**

色判定とコロニー数による判定を同時に行う場合は恒温槽を使用し、48時間(±3時間)培養後に判定します。

5. 廃棄方法は、医療用産業廃棄物として処理してください。

#### ■ 判 定 コロニー数および色変化と判定

| C.albicansの菌数(CFU/mL) | 色 調 | 判 定    |
|-----------------------|-----|--------|
| 約10 <sup>2</sup> 以下   | 赤 色 | 陰 性(-) |
| 約10 <sup>3</sup>      | 橙赤色 | 擬陽性(±) |
| 約10 <sup>4</sup> 以上   | 黄 色 | 陽 性(+) |



カンジダコロニー

- カンジダ菌が検出されれば、菌糸がなく、融合しないきれいな丸い艶のある褐色、または灰黒色の集落が発生します。  
但し、カンジダ属の菌種同定には向きません。
- 経時的に色調は変化しますので、室温培養の場合はコロニー数のみで判定してください。
- アオカビやケカビなどのコウジカビ(糸状菌)も本培地に発生することがありますが、この場合はフェルト状や綿状の菌糸がカビのような集落を作るので、容易に鑑別できます。
- 細菌の場合は、きれいな丸いコロニーを作らずに、ベチャーッとしたものが全体に広がっていきます。
- 緑膿菌等により、色調が紫色に変色することがあります。

#### ■ 保管方法 冷蔵庫保管 但し、凍結しないようにしてください。